

1. 法人本部

(1) 全体統括

2018年度は、中期経営計画の折り返しの年として、十分な取り組みができていない課題に対して検証を行ってきました。特に人材育成と職場環境の整備においては、これまでの取り組みを継承するのみに留まり、明確なキャリアパスの構築やメンタルヘルスケアの対応としては課題が残りました。

収益性の確保についても、昨年度よりは少し改善したものの、結果としては二か年度連続で目標達成に至りませんでした。このことは各管理者に年間を通じて課題として認識してもらい、事業運営の検証と見直し、経営の在り方について事業部内で課題共有に努めてきたところです。

また約20年間続けてきた訪問看護事業を人員不足により事業継続が困難となったことで今年度末をもって事業廃止に至ったことは非常に残念なことであります。

(2) 基本方針に基づく運営状況

①安心して働き続けられる職場環境の整備

ア. ルールを明確にした人事評価制度の運用を心掛けてきました。制度そのものの見直しには至りませんでした。目標管理や自己評価を繰り返すことにより職員の成長が多くの場面で認められることになりました。

イ. 多様な働き方への配慮としては、休職からの復職に際し、本人の状況に合わせた勤務時間や業務内容の提示により、スムーズな復職に繋げることができつつあります。杓子定規に対応するのではなく、人材育成を重視した選択は評価できるものと考えます。

ウ. 時間外労働の削減目標およびノー残業デーの設定を事業所ごとに策定しました。

エ. ルーテルグループでもある東京老人ホームとの合同研修も第三期目に入り、協働して人材育成に取り組みました。また修光学園（京都市）への現任研修として2名、3日間の研修を実施しました。

オ. 海外研修として、ドイツブラウンシュヴァイク福音ルーテル領邦教会宣教パートナー関係50周年記念「公式訪問団」へ2名の職員を参加させました。

②積極的な業務改善をもとにした生産性の向上

ア. 各事業部において業務の見直しを随時行い、省力化のための機器等について意見交換を行い、実施可能なところから導入しました。

イ. 現在ある情報共有のツールを活用しながら、人的ネットワークを強化してきました。

ウ. 業務の限定化、簡素化を検討し、多様な人材確保について検討をし、一部実施することができました。しかしながら、障害者の雇用までには至りませんでした。

③事業連携のさらなる強化による組織力とサービス品質の向上

ア. 複合的なニーズに対応するために法人内外の事業との連携に取り組みました。

イ. 第三者評価の受審を昨年度のケアハウスに続き、デイサービスで実施しました。

ウ. 各事業部の相談員等が情報の共有化と可視化の取り組みを継続し、その中で「お客様の声」を集めることとしました。

エ. 全体職員研修として、若年性認知症当事者による講演と高木慶子シスターの講演会をそれぞれ実施しました。

オ. 第三者委員を交えた苦情解決委員会を2019年3月11日に行いました。

カ. 南海トラフ大地震を想定した災害対策備品として、LPガスを使用した炊き出し用釜セット、LED照明等を整備しました。

④制度に捉われない地域の福祉ニーズへの積極的な対応

ア. 地域住民への介護サービスの説明会を実施し、交流の機会を作ることができました。

- イ. 緊急対応が必要とされる高齢者について、相談機関と連携し一時利用の支援を行いました。
- ウ. 更生保護機関との連携により、ボランティア活動場所の提供を行いました。

⑤中(長)期経営計画策定に向けて適切な収益性の確保

- ア. 昨年度の大幅な減収、減益を受け、年度当初より事業部管理者と短期目標を設定し毎月検証を行ってきました。しかしながら、事業によっては収益の改善に至らず、課題が残りました。
- イ. 事業ごとに行われる職制会議等において、収益改善に向けた取り組みを具体化し取り組んできました。
- ウ. 各事業部において、所定労働時間内での業務遂行、消耗品管理や光熱水費の使用状況等について、職員一人ひとりがコスト意識をもって関わることを推進してきました

(3) 理事会・評議員会等

①2018年度に行われました、理事会・評議員会は以下のとおりです。

- 2018年 5月28日 第1回理事会 於：るうてるホーム
- 2018年 6月19日 2017年度定時評議員会 於：るうてるホーム
- 2018年11月26日 第2回理事会 於：るうてるホーム
- 2019年 3月25日 第3回理事会 於：るうてるホーム

②監事監査は、2019年3月25日、5月17日に行われました。

③四條畷市による法人監査が2019年3月18日に実施されました。

(4) 設備整備（10万円以上）

- ・災害時炊き出し用かまどセット 162千円
- ・レセプト用パソコン一式 384千円

(5) 2018年度事業概要（2019年3月31日現在）

①実施事業数：17事業（うち四條畷市委託事業3）

（老人福祉法・介護保険法）

軽費老人ホーム（ケアハウス）、広域型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護事業、訪問介護事業、訪問看護事業（18年度末で廃止）、居宅介護支援事業、地域包括支援センター

（障害者総合支援法）

多機能型（生活介護・就労継続支援B型）、居宅介護等支援事業、日中一時支援事業、短期入所事業、計画相談支援事業

（市委託事業）

配食サービス事業、シーツ包布貸与事業、外出支援移送サービス事業、

②総事業費 613百万円（17年度601百万円）

③職員数 118名（うち非正規・嘱託65名）

2. 委員会報告

(1) 人材確保・育成委員会

①活動方針

法人の実践の積み重ねを継承・発展しサービスの向上と地域福祉の推進に積極的に取り組むため、志を同じくする人材を発掘し、また職員同士が相互に成長し合える環境を構築することを目的として活動しました。

②活動状況

2018年度は、昨年度から継続して人材育成としての新規採用職員研修の他、内定者向け懇談会などのプログラムを企画・実施しました。法人説明会や職場体験も積極的に受け入れ、採用に繋げることができました。

また、第三期東京老人ホーム・るうてるホーム合同研修として、新たに4名を選出し、実践的な取り組みをはじめることができました。

③人材確保についての活動内容

- ア. 近隣の看護系大学の在宅看護実習の受け入れ 1校
- イ. 就職フェア等へのブース出展 計4回 来訪者 計15名
- ウ. 法人説明会・見学会の開催 計6回 参加者 計9名
- エ. 体験就労、職場体験の受け入れ 計6名
- オ. 管内ハローワーク「事業所説明会・相談会」参加 来訪者4名
- キ. 高校、福祉系専門学校、大学への求人票持参

④人材育成についての取り組み

- ア. 新入職員研修プログラム企画・実施
- イ. 他委員会との合同での研修会の実施
- ウ. 東京老人ホーム・るうてるホーム合同研修アドバンスト研修 4名
第三期東京老人ホーム・るうてるホーム合同研修 4名

(2) 危機管理委員会

①内部監査

- ア. 内部監査を始めて今年で5年になりますが、取り組みとしては定着し、法人全体のコンプライアンスに関する意識を高めることにつながっています。新しい委員が加わったこともあり、今年度も内部監査を通じた委員の学びに力点を置いてすすめました。12月より4回の勉強会、打ち合わせを経て、2月に内部監査を行いました。対象は特別養護老人ホームでしたが、書類整備やユニットの環境において改善の余地があるものの、設備・運営上大きな問題はありませんでした。監査内容については、事前に模擬監査を行う等の取り組みを試行する必要性を認識しました。
- イ. 市の業者変更に伴い、書類廃棄の方法が変わりました。新たな廃棄方法に基づき、書類保存を行うよう周知しました。文書管理規程の検討には至りませんでした。

②安全運転に関する取り組み

春と秋には交通安全ポスターを用いて啓発活動を行いました。3月には安全運転講習会を実施し（26名参加）、事故の傾向や防止策について学ぶとともに、運転適性について自己診断を行いました。事故件数は2018年度14件（2017年度14件）でした。

昨年同様、バックや方向転換の際に多く発生しました。また、脱輪が3件あり、安全運転講習会において、死角となる事故多発地帯を共有しました。

新しい取り組みとして、人材確保・育成委員会の企画する介護技術講習会にドライバーが参加し、基本的な介護技術について学びました。

③非常災害対策

- ア. 2018度は、大阪北部地震や大型台風の上陸があり、情報共有のあり方については課題が残りましたが、その都度振り返りと必要な対策を検討することができました。また、この災害を受け、四條畷市高齢福祉課と課題を共有しました。連絡手段や具体的な動き、市域における福祉避難所の位置づけなど、様々な課題が明らかになりました。
- イ. 災害対策備品として、特養、ケアハウスの照明について検討し、購入。また、法人としては非常時炊き出し釜を購入しました。
- ウ. 福祉避難所への理解を深めるべく、四條畷市の出前講座を用いて、法人内のリスクマネジメント研修（3/27、42名参加）を行いました。砂地区や他法人職員、ケアハウス入居者の参加もありました。
- エ. 火災時の避難訓練および水消火器による消火訓練を6/12（昼間想定）、10/17（夜間想定）に実

施しました。具体的な利用者像をイメージして個々の避難方法を検証したり、避難指示役割を整理したりしました。放送設備の設定や災害時の連絡体制について、検討を行いました。

(3) 安全衛生委員会

①活動方針

入居者、利用者が安心、安全に生活し、活動できるよう、また、職員の健康が守られ、働きやすい職場環境が保たれるように、健診や、感染症予防対策を実施しました。職員の安全衛生への意識を高め、知識やスキルを習得できるような研修を企画立案し、行いました。活動のやり方としては、メンバー16名を6グループに分け、グループ毎に各事業に責任を持って実施しました。

②定期健康診断

ア. 入居者健診 実施時期 8月1日 受診者数 ケアハウス・特養 計96名

イ. 職員健診 実施時期 9月4日、9月21日 受診者数 124名

1日目は台風と重なり、実施できるか危ぶまれたが、開始時間を早めるなど協力を受け、無事行えました。

ウ. 職員個別健康相談

健診結果に基づき、有所見の職員に対し、産業医に個別面談を実施して頂きました。2017年度16名に対し、2018年度は25名と要面談者が増加しており、職員の健康保持のための対策が必要と考えられます。

③インフルエンザ予防

ア. 予防接種実施状況 計 242名（入居者、利用者、職員など）

イ. 発症状況 12月～3月 入居者・利用者 5名 職員 6名

昨年度に比べ、施設内での発症人数は減少しました。早くから予防対策を実施したことによる成果と考えています。

④研修実施

ア. 産業医によるメンタルヘルス研修 26名

イ. 腰痛予防ヨガ教室2回 42名

ウ. AED救急救命研修（消防による）25名

エ. 感染症対策研修 18名

オ. 「乳酸菌とヨーグルトの話」（株式会社明治）33名

⑤ガイドライン策定委員会

法人内で、感染症予防のためのガイドライン（指針）を策定するために、2017年度から安全衛生委員会内で委員会を作り、定期的に検討してきました。2018年度は、インフルエンザ発症時の対策時に、作成中のガイドライン（案）を参考にすることで方針が立てやすくなりました。また、委員会での検討の際に具体的な事例に基づき、より実践的な内容を盛り込んでいけました。2019年度での完成を目指しています。

(4) 地域交流委員会

①活動方針

地域との繋がりを作る目的で、るうてるフェスタの開催、ボランティア活動のコーディネートを推進しました。また、職員の福利厚生、メンタルヘルスを考え、働きやすい環境作りのため職員交流会の実施、第二期一般事業主行動計画の申請を行いました。

②活動状況

ア. ボランティア活動支援

職員交流チームと統合したことで、準備や活動当日の協力体制が整ってきています。

イ. 職員交流の機会の実施

テーマを「ぶっちゃけどうなん？」とし、実施日をるうてるフェスタの同日から変更して試行

しました。参加人数は40名と、昨年よりも少ない結果となったので、方法、内容ともに再検討をしていくこととなりました。

ウ. 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の推進

メンバー全体で、計画の実施や、申請についての理解を深め、推進しました。

③ るうてるフェスタの実施

ア. 「テーマを「みんなエンじょい」とし、コンセプトは輪（円）、縁のエンを意識したものとしました。利用者、ボランティア、市内事業所と関わりを持ち、一緒に創ることを目的に推進し、回を重ねるごとに関係を深めることができています。

参加（人数、事業所）300名（2017年比32%増）、市内事業所 6施設、ボランティア 5団体26名

イ. 手づくりコーナーの実施

準備の段階から、職員有志との協力体制ができ、部署を越えたと交流の時となりました。また当日は地域の方との交流機会ともすることができました。

3. チャプレン

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」（ヨハネ福音書 15:5。リーフレット『愛と希望をもって』より）

るうてるホームの玄関ロビーにあるスタンドグラス『洗足のキリスト』に示されている、お客さまのニーズに心して仕えてゆくという創設時のミッションを継承してゆくことに努めてまいりました。

(1) 「礼拝（神の御言）」中心の働き

① 主日礼拝

毎週日曜日午後に多目的ホールで、関西地区や地域の牧師先生方の協力を得ながら、礼拝を行っています。毎回の出席者は30名前後で、月に一度はチャプレンが聖餐礼拝を担当しています。受洗されていない参加者も毎回10名前後おられ、それらの方々には祝福をお祈りしています。

② 毎朝の礼拝

毎朝「聖書日課」を用いて行われる入居者を中心とした「朝の礼拝」も、るうてるホームをその最初から支えてきた祈りの時であり祝福の時です。ご奉仕くださる方々に感謝いたします。

③ 葬儀・告別式

2018年度は、チャプレンとして3名の方のご葬儀に関わらせていただきました。また、6月には一昨年秋に召天された方の納骨を能勢納骨堂において日本キリスト教団交野教会牧師と共に行いました。

ホームの多目的ホールで行われるキリスト教式の葬儀は、「わたしは復活であり、命である」と告げられた復活の主イエス・キリストがその中心におられて慰めと希望に満ちたものです。そこで職員によって分かち合われる思い出の言葉は心がこもり、故人のご生涯を生き生きと想起させてくれるものとなっています。「神ともにいまして、ゆく道を守り」という讃美歌を歌う中で進む職員の献花と出棺も参列する者（特にご遺族）の心に深く響き、忘れ得ぬ印象を刻印します。皆が見送る中でホームの正面玄関から棺が送り出されることも私たちるうてるホームの特徴でありましょう。それは見事な葬儀であり、長い人生を生き抜いてこられた方々が人生をまとめてゆくのにまことに相応しいものであると思います。

④ 聖書研究

原則として月2回水曜日、天王寺教会牧師とチャプレンが交代で聖書研究を行いました。

(2) その他の働き

①牧師懇談会

主日礼拝でご奉仕くださる牧師を毎年お招きし、三度目の懇談会を7月9日に実施しました。8名の牧師先生にご参加いただき、各事業担当者と現状について共有し、交流の時を持ちました。

②リラ・プレカリア（祈りのたて琴）

2018年4月にはリラ・プレカリアを主宰している宣教師にるうてるホームに足をお運びいただき、プレゼンテーションと交流の時を持つことができました。そして秋からは修了生のホームにおけるご奉仕が月に一度のペースで始まっています。

これは看取りのケアという観点においても、スピリチュアルケアという観点においても、なかなか斬新な働きであると捉えています。昨秋には匿名の方からこの働きのためにハーブが寄贈されましたことも感謝をもってご報告させていただきます。

③職員への関わり

記念礼拝を通じて創立時のキリスト教精神を確認しています。10月には、上智大学グリーンケア研究所より高木慶子シスター（特任所長）をお招きして、『ありがとうと言って死のう～悲しみの乗り越え方』という主題で職員のためのスピリチュアルケア研修会を行うことができました。高木先生には講演後は入居者と共にティータイムを楽しんでいただくこともできました。

また、日常においてもチャプレンとして、これまでの経験と専門性を生かしつつ、自分自身を見つめながら自他を大切にするという対人援助職の基本姿勢について共に学びを深めています。るうてるホームの働きがさらに豊かに祝福されて神に用いられてゆきますよう、日々の祈りに覚えて祈っています

4. 軽費老人ホーム ケアハウスるうてる

(1) 運営状況

2018年度は年間19名の方の入退居があり、動向が大きく変化したことで対応に苦慮した一年でした。退居後の所在については特養6名入居、短期入所利用1名、在宅への移行1名、グループホーム1名、介護付き有料老人ホーム5名、介護付きケアハウス2名、入院中に逝去された方3名、昨年に引き続き、今年度も1名の方の「看取り」を行うことができました。ご家族が最期まで大切に支えてくださいました。92歳の生涯、自分らしく最期を生きられたことに深く敬意を表するとともに「生き方上手なお手本」として入居者や職員への学びとさせていただきます。

今年度の事業計画最優先課題として「感染症0（ゼロ）作戦」を掲げて様々な取り組みを講じてまいりました。歯科衛生士から「口腔ケア」に関する指導の他、内部の職員による「手洗いの方法」や「食中毒・感染症の予防」についての講義を実施。各種専門的な指導は、特に入居者の関心を高め、高い意識を持って日々取り組むことができ、大きな成果となりました。

(2) 事業実績

①利用状況

	2018年度	2017年度	差異
のべ利用者数	17,116日	17,595日	▲476
院のべ日数	845日	631日	214
短期入所利用日数	17日	27日	▲10
稼働率（対実員）	94.0%	96.5%	▲2.5%

②入居者の現状（2019年3月31日現在）

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	1	4	5	4	0	14

女	0	8	19	9	0	36
---	---	---	----	---	---	----

最高齢：男 98 歳 女 99 歳 平均年齢 男 82 歳 女 84.4 歳

介護度別	要支 1	要支 2	介護 1	介護 2	介護 3	計
男	2	1	3	2	0	8
女	3	4	8	5	0	28

③介護保険利用等の支援

ア. 介護認定を受けた方の立ち合い（のべ 36 名）やカンファレンス等の会議にはケアハウス職員が必要に応じて参加。入院や短期入所などの場合には、病院側のスタッフや他事業所との情報を共有し、介護サービスが適切に届けられるように支援しました。

イ. 福祉用具のレンタルベットや手すり、車椅子等を使用して、転倒事故対策を行いました。

介護保険利用状況	2018 年度	2017 年度	差異
訪問介護	214	254	40
訪問リハビリ	17	14	3
通所介護	222	264	42
福祉用具レンタル	135	149	14
訪問看護	40	31	9
短期入所	20	5	15

5. 特別養護老人ホーム るうてるホーム

(1) 運営状況

日常的にケアの質的向上や職種間連携による健康管理に重点的に取り組んだ結果、のべ入院日数を昨年度比 3 割減にすることができました。同時に医療的知識や応急対応の内部研修、介護基礎研修などを充実させ、積極的な事故対策や介護職のスキルアップ、業務環境の改善へ従来以上に取り組めたことは大きく評価できることです。

またユニット間の連携、他事業部との連携、業務改善、環境改善等への取り組みは課題解決力やチーム力の向上となり、ケアの質的向上へと繋げることができました。

反面、ADL の低下による介護状況の変化に対応するには不十分な人的環境により、入居者一人ひとりの生活の質向上に向けた取り組みには十分に應えることができませんでした。このことは職員定着を目的とした人材育成の取り組みにも少なからず影響を与え、課題を残すこととなりました。

(2) 事業実績（定員 50 名）

	目標	2018 年度	2017 年度	目標との差異
のべ利用者数	17,338 人	17,553 人	16,718 人	+215 人
稼働率	95.0%	96.2%	91.6%	+1.2%
平均介護度	—	4.0	3.9	—

※入院のべ日数は 673 日（17 年度 1,019 日）、退居後の新規入居までの空室日数は 61 日（同 428 日）

※新規入居者は 6 名、退居者数は 5 名でした。

利用者の現況（2019 年 3 月 31 日現在）

年齢	60～69 歳	70～79 歳	80～89 歳	90～99 歳	100 歳以上	計
男	0	2	4	2	0	8
女	1	4	10	23	4	42

最高齢：男 93 歳 女 105 歳 平均年齢：男 84.2 歳 女 91.0 歳

利用年数	～1 年	1～4 年	5～9 年	10～14 年	15～19 年	20 年～	計
男	0	7	1	0	0	0	8

女	5	28	4	4	0	1	42
---	---	----	---	---	---	---	----

平均在所期間：4年0ヶ月

6. るうてるホーム短期入所生活介護事業所

(1) 運営状況

在宅生活の継続を目的とした事業所として、短期利用中の生活環境の改善、日中活動や個別支援を充実させるための課題を検討し、検証を重ねてきました。また利用者の意見から、具体的な活動を企画、実施することにも取り組んできました。またケアの質的向上に向けた取り組みとして、ユニット環境、居室環境の改善に向けて、他関係機関等との積極的な意見交換を行うことができました。

利用実績向上へ向けての取り組みは、2名の相談員配置により相談機能の強化を図り、ニーズに適切に対応することにより、昨年度比8.5%を達成することができました。

(2) 事業実績（定員20名）

	目標	2018年度	2017年度	目標との差異
のべ利用者数	高齢 2,627人	2,667人	2,181人	+40人
	障害 2,190人	1,913人	1,752人	▲277人
稼働率	高齢 36.0%	36.5%	29.9%	+0.5%
	障害 30.0%	26.2%	24.0%	▲3.8%

※一日当たりの平均利用は、12.5人(高齢7.3名、障害5.2名)でした。

※一ヶ月を超えて利用された方は、高齢5名、障害4名でした。また緊急利用はのべ3名でした。

※3月末現在の実登録者数は、高齢44名(男15、女29)、障害28名(男14、女14)でした。

※一人あたりの平均利用日数は、高齢11.2日、障害9.8日でした。

7. デイサービスセンターるうてる

(1) 運営状況

「みんなで作るデイサービス、お一人おひとりが主人公」に取り組み、新たにポイントカードを導入し、利用者の意欲の向上と、職員の思いを形にすることができました。

生活リハビリでは、引き算の介護を進め、お一人おひとりの出来る事を見極め、色々な活動を増やしてきています。また、個別対応として他事業所担当より機能訓練のメニュー内容を確認し、実施記録を取り実践をしています。

利用者獲得の取り組みとしては、他市事業所への営業やホームページ、掲示板により活動内容のアピールを行いました。また、3月には今までにないインパクトのあるキャンペーン企画を実施し、5名の新規利用者を獲得することができました。

さまざまな取り組みを推進してきましたが、実績としては目標90%に届かず、年間平均稼働率84.2%となりました。市内他事業所にリサーチしてみたところ、同規模のデイサービスは軒並み同じような実績でした。体験利用者数は目標を達成できてはいるものの、昨年度より14件の減少、新規契約率74.6%から66.7%と7.9%の減少がみられます。

最近、近隣に多様なニーズに対応したデイサービスが開設しました。私たちの強みである「高い介護力、送迎の対応力、優しさ」という人材を活かし、私たちのできること、大切にしていけることを実践してきました。

(2) 事業実績

	目標	2018年	2017年	目標との差異
のべ利用者数	9,796人	9,173人	9,536人	▲623人
稼働率(対定員)	90.0%	84.2%	87.3%	▲5.8%
体験利用者数	36人	45人	59人	9人

新規利用者数	—	30人	44人	—
新規利用契約比率	—	66.7%	74.6%	—

8. 障害者多機能事業所 ジョイフルるうてる

(1) 運営状況

生活介護では、個別支援の充実を目指し、ケース検討を週1回実施しました。利用者への理解を深めて個別支援計画に落としこむことができ、今まで課題であった計画の作成が大きく進みました。

また、新しいプログラムの創設としては、重度身体障害者に向けてご家族にご本人の嗜好等の確認を行い、視覚聴覚等、感覚に働きかけるプログラムをおこなうことができました。稼働率は108%と目標の110%に近づけることができました。

就労継続支援B型では、支援学校から初の利用者を迎えることができました。また、ショートステイ利用者や営業活動からも利用に繋げることができました。新しい作業として畑も開始し、苗植えから販売に至るまで一貫して取り組むことができました。利用者間でもチームワークが強化され、うまくできない方へできる方が支援するなど、協力できる体制作りもできてきています。

稼働率は46%目標の50%に及ばなかったものの、過去5年間で最高の実績をあげることができました。また、就労継続支援A型へ1名移行することができました。

今年度の平均工賃は10,833円と昨年度の平均工賃8,498円に対し、2,335円向上することができました。

日中一時支援事業では、年間4日の利用がありました。

(2) 事業実績

生活介護	目標	2018年度	2017年度	目標との差異
のべ利用者数	3,379人	3,323人	3,179人	▲56人
稼働率(対定員)	110%	108%	103.1%	▲2%

就労継続支援B型	目標	2018年度	2017年度	目標との差異
のべ利用者数	1275	1174人	1,064人	▲101人
稼働率(対定員)	50%	46%	41.3%	▲4%

9. 四條畷第1地域包括支援センター

(1) 運営状況

2018年度は「住民が持つ力の証明」をキーワードとして、地域包括ケアの構築に向けた取り組みを事業方針としました。あえて「証明」という科学的な表現を用いることで、①エビデンスを意識すること、②自分だけの価値観でなく共通理解を目指すこと、③専門職として能動的な思考と活動を覚悟することを目指しました。職員の取り組みとして、①②については課題が残りますが、③については、災害時対応の検討会開催や、介護者・家族交流会の自主運営に向けた支援、絆カフェの開催、日勤リーダーの導入など、具体的に実践することができました。(詳細は以下の項目にて記載します。)

(2) 事業実績

① 包括的支援事業

ア. 総合相談支援事業(のべ件数)

冊 登 録	2018年度	電話	F A X	来所	訪問	その他	計
	件数	476	2	90	146	34	748
	夜間緊急	11	0	0	1	0	12
冊 登 録	2017年度	電話	F A X	来所	訪問	その他	計

	件数	231	0	43	22	4	302
	夜間緊急	22	0	5	0	0	27

イ. 権利擁護事業（のべ人数）

	2018年度	2017年度
権利擁護に関する相談	45人	10人
高齢者虐待に関する相談	15人	14人

ウ. 包括的継続的マネジメント業務（のべ人数）

	2018年度	2017年度
介護支援専門員支援に関する相談	11人	10人

②指定介護予防支援・第1号介護予防支援事業（介護予防ケアマネジメント）に係る事業

ア. 2018年度実績

	介護予防支援	介護予防ケアマネジメント
ケアプラン作成数	1,190件	962件
うち委託件数	986件	751件
うち自事業所作成件数	204件	211件

イ. 昨年との比較及び目標との差異

	目標	2018年度	2017年度	目標との差異
ケアプラン作成数	1,900件	2,152件	2,117件	252件
うち委託件数	1,500件	1,737件	1,772件	237件
うち自事業所作成件数	400件	415件	345件	15件

③介護予防事業

ア. 介護予防普及啓発事業 介護予防教室・介護予防に関する講演会（ ）は参加人数

	2018年度	2017年度
開催回数	4回（70人）	6回（123人）

イ. 地域介護予防活動支援事業

（ ）は参加人数

	2018年度	2017年度
運動サポーター連絡会議	4回（28人）	4回（32人）
カラコロ体操	80回（1,706人）	90回（2,098人）
その他の事業（ボランティア活動支援等）	11回（40人）	34回（273人）
地域ケア会議	32回（304人）	39回（289人）

④その他の事業（任意事業）

ア. 家族介護支援事業（ ）はのべ参加者数

	2018年度	2017年度
家族介護教室	15回（90人）	12回（71人）

イ. 認知症高齢者見守り事業（ ）はのべ参加者数

	2018年度	2017年度
認知症に関する教室・講演会	17回（299人）	9回（421人）

10. ケアプランセンターるうてる

（1）運営状況

前年度に続き、法令順守に関する相互点検、相互支援の仕組みづくりをすすめました。今年度はケアプラン点検の一環として、保険者よりヒアリングが実施されましたが、アセスメントの内容とサービスの根拠について、事業所全体で再考する契機となりました。また、書類の相互点検を2回実施し、書類の綴じ方を統一することができました。

看取りのマネジメントにおいては、在宅と施設のケアをつなぐ取り組みとして、地域ケア会議への参加を継続しました。この会議には特養事業部も加わり、関係機関と共に、看取りや透析などの状況にある方々の短期入所について、地域課題を共有することができました。その結果、看取りの方を短期入所で受入れできたのはたいへん大きな成果でした。ケアハウスの食事支援については、ケアハウス、ヘルパーステーションと協働し、有償サービスとして整理することができました。

総合相談機能の拡充においては、障害児・者への相談支援は既に担当上限を超えているため、相談支援専門員を加配すべく関係者や養成校などに打診を行いましたが、確保にはつながりませんでした。相談支援専門員の不足は制度設計上の問題もあり、解決策を模索すべく、四條畷市自立支援協議会内に立ち上げられた人材確保に関するプロジェクトに参画しました。社会貢献事業の相談は1件あり、急を要する経済的支援について、法人内での体制を確認する契機としました。事業自体は本来的な趣旨に沿って運用されており、市との協議は行いませんでした。

人材育成のための環境整備としては、相談員・事務員ネットワーク会議への参画を計画に挙げていましたが、法人内連携については都度情報共有し、課題について協議するようすすめることにしました。

(2) 事業実績

①介護保険 居宅介護支援・介護予防支援

	目標	2018年度	2017年度	目標との差異
介護ケアプラン数	1,656件	1,526件	1,453件	▲130件
介護予防ケアプラン受託数	480件	450件	424件	▲30件
一人あたり請求件数/月 ※1	33.6件	31.0件	32.2件	▲2.6件
一人あたり支援件数/月 ※2	37.8件	35.0件	36.3件	▲2.8件

※1…一人あたり請求件数 = [要介護ケアプラン数 + (介護予防ケアプラン ÷ 2)] ÷ 4.7 (常勤換算値) / 月

※2…一人あたり支援件数 = (要介護ケアプラン数 + 介護予防ケアプラン) ÷ 4.7 (常勤換算値) / 月

※2018年2月配置の職員については、常勤換算値0.5名でカウント

②障害者総合支援 計画相談支援

	目標	2018年度	2017年度	目標との差異
プラン数	330件	295件	235件	▲35件
請求件数	66件	80件	54件	14件

1.1. ヘルパーステーションるうてる

(1) 運営状況

2018年度も「るうてるケア」の再構築を目指して、お一人お一人の利用者を起点にニーズを捉え、事業部間連携や有償サービスの検討、提供を継続しました。とりわけケアハウスの食事支援についてはケアハウスやケアプランセンターと協働してサービス提供体制を整えることができたが、法人内連携については、さらなる可能性があることを再認識しました。

サービスの質向上については、フットケアや障害者理解などをテーマに内部研修を実施しました。また、看取り対応の方々には2名体制でサービス提供するなどして、利用者 - 職員双方に安心できる環境となるよう試行しました。

介護・生活支援サービスの充実については、前述のとおり有償サービスの一部を整理することができました。また、四條畷市子ども未来部より「ひとり親家庭日常生活支援事業」の打診を受けましたが、事業が必ずしもニーズによらないため、受託は見送ることとしました。

また、人材育成においては対応の質向上を目指して、引き継ぎや会議などをOJTとして活用し、サービス提供責任者間で新規利用者へのフォローのあり方や支援の視点について共有しました。

登録ヘルパーの高齢化や稼働減からすると、人材確保は最重要課題です。今年度も法人内委員会と連動しながら求人活動を行いました。5月には四條畷市の福祉人材フェスティバルに参画し、業界や法人のアピールに努めました。

(2) 事業実績

	目標	2018年度	2017年度	目標との差異
利用者数（月ごとのべ人数） （障害サービス利用者）	860人 (130人)	626人 (116人)	635人 (69人)	▲234人 (▲14人)
のべ訪問回数 （介護保険）	7,100回	5,285回	6,115回	▲1,815回
〃 （障害者）	1,400回	1,200回	1,314回	▲200回

1.3. 栄養課

(1) 運営状況

2018年度は、入居者や利用者が、日々満足して生活できるように、施設が一体となって支え、安全・安心を第一とする食事を通して選ばれる施設となるよう業務をすすめました。

介護職員や相談員との連携により、一人一人の健康状態に合わせた食事提供や栄養摂取方法を検討し、健康保持に務めました。

また、狭い範囲での栄養室事務だけでなく、委員会活動やプロジェクトに参加し、研修も受講するだけでなく、後輩職員育成研修にも携わり、幅広く他部署職員とも関わりを持ち、共同して業務を行うことができました。

(2) 事業実績

事業所		上半期	下半期	2018年度合計	2017年度	2016年度
ケア	実食数	22,172	22,071	44,243	46,427	45,262
特養	実食数	30,707	29,302	60,009	56,221	58,382
	経管	1,758	2,166	3,924	3,465	4,811
デイ	食数	4,521	4,252	8,773	9,264	9,804
障害	食数	1,900	1,808	3,708	3,361	2,903
配食	食数	322	300	622	724	1,573

1.4. 事務課

(1) 運営状況

2018年度の事業方針として、法人中期経営計画目標達成のために各事業所がそれぞれの事業目標を達成できるよう指針を示し、結果を振り返りその先を見据える支えの働きをあげました。

経営基盤の安定化への取り組みのための財務状況の把握と健全性の維持に注力した結果、収入構造の理解が進み、財務状況の把握については正確性がより向上するとともに速効性も増してきました。健全性については、収入が伸び悩む中、支出において計画性についての認識を徐々に浸透させていくことができたと考えます。

人材育成と職場環境整備については、職員会議や様々なミーティングなどで部全体の業務遂行状況や目標達成度合いを共有し、今後の業務遂行方針や課題を明確にすることで各人の理解も深まり、全員がより広い視野を持ち高い視点から法人全体を考える習慣が育成されました。

ホーム内外の様々な情報に幅広く接触する機会が多い部署として、地域と法人をつなぐ架け橋としての役割を果たすことができ、他事業所、行政機関との対応など、ホーム全体の状態や動きを日頃から把握し、適切な対応を心がけてきました。

1.5. 四條畷市委託事業

(1) 運営状況

配食サービスについては、新規利用はなく、1名終了となりました。リネンサービスも同様で、新規利用はなく、1名終了となりました。外出支援移送サービスは、今年度も利用がありませんでした。

市委託事業については、市域のニーズを確認しつつ、事業の方向性について市と協議していく必要がありますが、今年度はまずリネンサービスのあり方について、市担当者と問題の共有を始めました。

(2) 事業実績

① 配食サービス

	2018年度	2017年度	差異
のべ利用者数	44人	50人	▲6人
配食数	563食	614食	▲51食

② リネンサービス

	2018年度	2017年度	差異
のべ対象者数	15人	24人	▲9人
のべ枚数	129枚	216枚	▲87枚

③ 外出支援移送サービス

	2018年度	2017年度	差異
利用実人員	0人	0人	—
延べ利用者数	0人	0人	—